

送辞

暖冬が過ぎ、ますます暖かな春の日差しが感じられ、小鳥のさえずりも、あちらこちらで聞こえるようになりました。

三年生の皆さん、本日は、ご卒業おめでとうございます。この一年を振り返ると、部活動においても、生徒会活動や行事においても、常に私たちをリードしてくださった先輩方の輝く姿が、桜の花びらのように舞い降りてきます。

今年度の小泉中の生徒会スローガン、小泉大都市圏の下、先輩方は常に全力で取り組み、真剣に頑張ることを楽しみながら、私たちをよりよい方向へと導いてくださいました。

心を一つに、みんなで円陣を組んだ「体育祭」。クラスの強い絆を感じました。頼れる団長の下、必死に声を出し続ける先輩方の姿がありました。より速く、より多くと、日々全力で練習を積み重ねた努力が、「根」や「茎」となり、クラスや団が、一丸となって大輪の「花」を咲かせました。勝った団も、負けた団も、涙を流していました。なぜ、あんなにも泣けるのでしょうか。それは、結果以上に、「つながること」全力で取り組むこと」に、こだわられたからだと思います。

体育館中に、美しい歌声を響かせた「合唱祭」。先輩方の歌声は、聴いている人の心をつかみ、大きな感動を与えました。ひな壇に上がった先輩方一人ひとりの誇らしげな表情に、圧倒されました。先輩方が、合唱に力を入れ、声量・発音・強弱など、細かい部分にまでこだわり抜いたことが本当によく伝わり、力の差を感じました。言葉に魂が込められていました。仲間のよさを、「花」としてまとめた「ブーケ」の掲示にも、練習から本番まで、本気で取り組んできたことが表われていました。

何より、この一年、一番小泉中学校が変わったのは「掃除」です。これまでになかった、新しい取組を考えてくださいました。時間いっぱい、すみっくまで掃除する」という意識に変えた前期。掃除前の班会議で、具体的な目標を立てて臨んだ後期。二年生の代表が、先輩方の掃除を見学させていたとき、誰もが真剣に黙々と掃除に打ち込んでいる姿に、自分達の取組の甘さを実感しました。「これではいけない」と考えさせられました。だからこそ、私たち一、二年生は、学年総まとめの取組に、「掃除」を選びました。黙って掃除に取り組むのではなく、「生懸命掃除に打ち込んでいたら、無言で取り組んでいた」とおっしゃっていた先輩方の姿には、まだまだ追いつけません。私たちの掃除への取組姿勢は、格段によりくなりました。いつでも、姿で示してくださいましたからこそ、小泉中の掃除が大きく変わったのだと思います。全力で楽しみながら改革してきてくださった、頼りになる先輩方が、卒業されてしまうと思うと、とても寂しいです。しかし、これまで先輩方が築き上げてきた伝統を、私たちが、しっかりと引き継ぎ、さらに素晴らしい学校にしていきます。そして、先輩方のように、つながりをもち、全員でやり遂げるということにこだわって、小泉中の「合唱」・「掃除」をさらに高めていきます。どうか見守ってください。

ご卒業、おめでとうございます。今まで、本当にありがとうございました。
先輩方の輝く未来を心より願っています。

令和二年三月十七日

在校生代表

永江 心美

